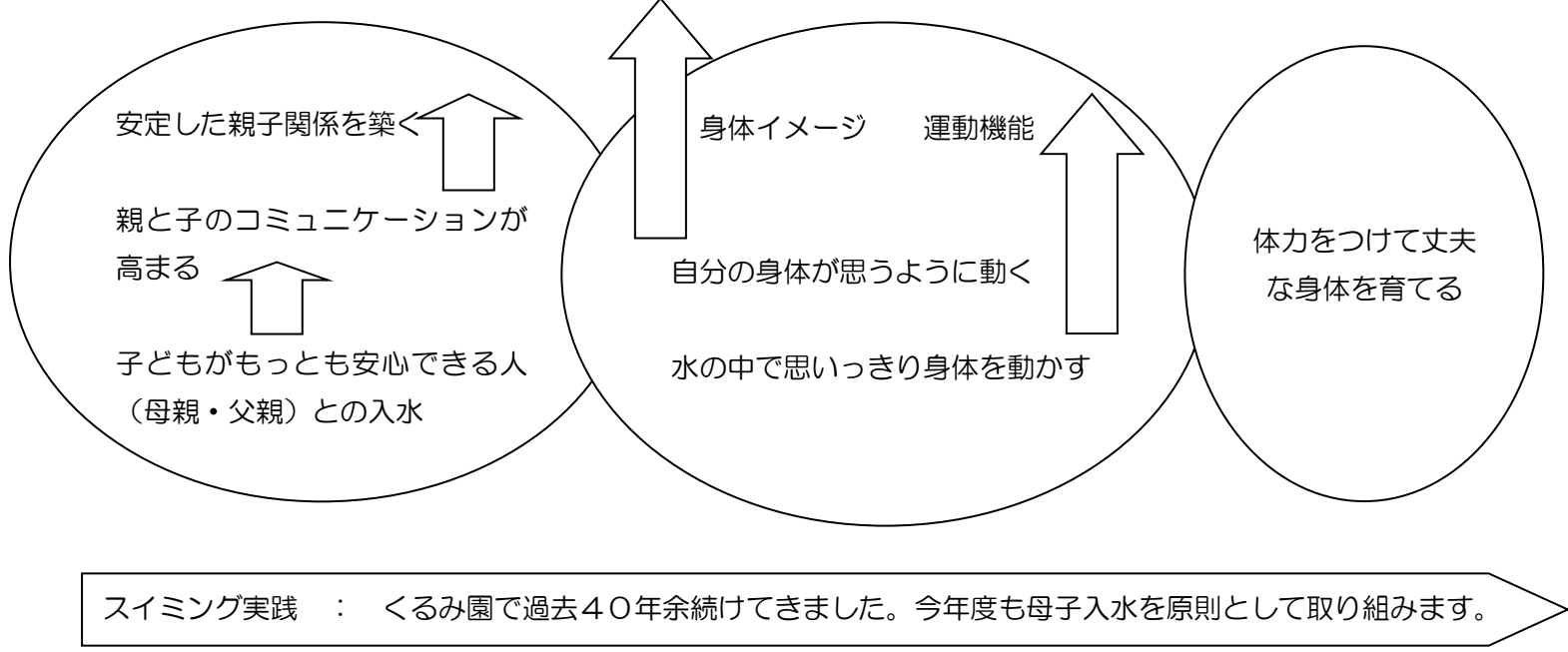
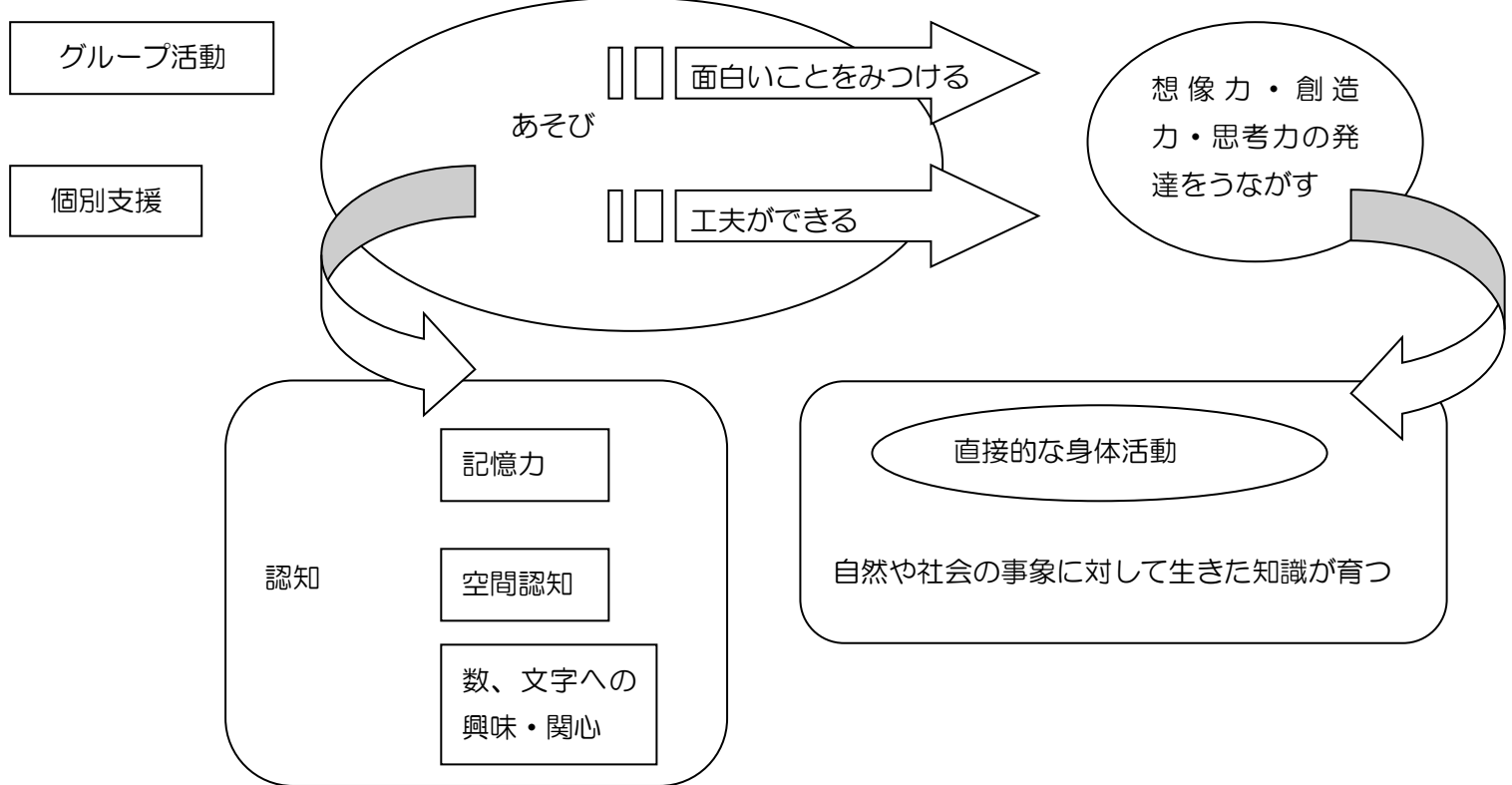


発達支援内容

項目・領域	説明	イメージによる説明
<p>(1) 生活 (健康・生活)</p>	<p>1日の生活の流れ（保育の流れ）が分かり、見通しを持って主体的に活動できるちからを育てます。</p> <p>日常生活動作を身につけ、生活力を育てます。</p>	<p style="text-align: center;">イメージによる説明</p>
<p>(2) 支援法</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">感覚運動あそび</p>	<p>こどもの成長過程において、第1段階となる触覚・前庭覚（揺れをつかさどる感覚）・固有受容覚（筋肉の動き）・聴覚・視覚という、五つの感覚の土台作りは大切です。この土台作りは、その後の子どもの成長発達に影響してくると言っても過言ではありません。</p> <p>くるみ園においては、感覚運動あそびを発達支援の中に取り込んで、日々実践してきました。幼児期における「自分の身体が思い通りに動く」経験は、ことば・対人関係を育てていく上でも柱となります。</p>	

項目・領域	説明	イメージによる説明
<p>(2) 支援法</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">インリアル・アプローチ</p>	<p>子どものコミュニケーションの意欲を育てていくためには、まずは子どもから出されるアクションをしっかり受け止め、子どものペースで関わりをもっていくことが基本となります。</p> <p>くろみ園では、これまでインリアル・アプローチの考え方に共感をし、内部で研修を積み重ねてきました。保護者と子どもの関係が、しっかり育っていけるように、ビデオ分析等を取り入れながら今年度も取り組んでいきます。</p> <p style="text-align: center;">言葉がけの7つの方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの行動を真似る (ミラリング) <small>(子どもが犬の真似をすると、大人も真似るなど)</small> 2. 子どもの音声を真似る (モニタリング) <small>(子どもがワンワンというと、大人も同じようにわんわんと言うなど)</small> 3. 子どもの行動や気持ちを言語化する (パラレル・トーク) <small>(「バスきたね」「カッコいいね」など子どもが言ったような言葉を代わりに言う。)</small> 4. 大人が自分の行動や気持ちをことばにする (セルフ・トーク) <small>(「ママは椅子をお片づけますよ」と言って、片付ける)</small> 5. 子どものことばを言い直して聞かせる (リフレクティング) <small>(かえるを「る」と言ったことに対して、ちがうよと否定せずに、「カエル、カエルだね」という)</small> 6. 子どもの言葉を広げて返してあげる (エキスパンション) <small>(絵本を見て、「ながーい」と子どもが言うと、「ごぼーさん、ながーいね、ちゃいるだね」という)</small> 7. 子どものいうべき言葉やするべき行動の見本を示す (モデリング) <small>(「これから はみがきシュッシュしまーす」と言って、見本を見せながら一緒に歯磨きする)</small> 	<p style="text-align: center;">イメージによる説明</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">感覚と運動の高次化理論</p>	<p>子どもの発達過程に合わせたあそびを考えていく上で、心理臨床家である、故宇佐川浩先生の考え方である「感覚と運動の高次化理論」を学び、実践していきます。</p> <p>子どもの発達を細かく分析し、子ども達の成長を後押ししていける取り組みを見つけしていきます。</p>	

項目・領域	説明	イメージによる説明
<p>(3) 水泳 (感覚・運動)</p>	<p>過去40余年、くるみ園においてはスイミングを実践してきました。今年度も母子入水を原則として、取り組みます。</p> <p>子どもがもっとも安心できる人（母親・父親）との入水で、親と子のコミュニケーションが高まり、安定した親子関係を築きます。</p> <p>体を水の中で思いっきり動かすことで、「自分の身体が思うように動く」経験を積み重ね、身体イメージや運動機能を高めます。</p> <p>体力をつけて、丈夫な身体を育てます。</p> <p>※これまで利用した子どもたちの中には、成人しても自身の余暇の楽しみの一つとして、水泳そのものが生活の中に定着している方もいるのです。</p>	<p style="text-align: center;">イメージによる説明</p> 
<p>(4) 認知 (認知・行動)</p>	<p>面白いことを子ども自身がみつけ、あそびの中でいろいろと工夫ができるように支援します。</p> <p>また、あそびを通して想像力、創造力、思考力の発達を促すことができるよう個別支援もしくは少人数でのグループ活動を行ないます。</p> <p>その中で以下の力を育てます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 記憶力 2 空間認知 3 数、文字への興味・関心を育てます。 <p>また、自然や社会のいろいろな事象に対し、直接的な身体活動を通して、生きた知識が育つように側面から支援します。</p>	

項目・領域	説明	イメージによる説明
(5) 言語 (言語・コミュニケーション)	<p>ことばを育てる基礎能力を向上させるためには、感覚(触覚・味覚・嗅覚・聴覚・視覚)の学習がきわめて重要であることを踏まえ、以下の領域について支援を行ないます。</p> <p>1 口腔器官の機能を高め、構音機能を改善する領域</p> <p>2 人に興味を示し、コミュニケーション能力の形成と楽しさを共有する領域(特にインリアル・アプローチについて研修を深め利用していきます。)</p> <p>3 日常生活に関連の深いことば(意味)を理解する領域</p> <p>4 語彙を増やし、表現力を高め簡単な会話ができる領域</p> <p>5 象徴機能を高め、みたて・つもりあそび、ごっこあそびにつなげる領域</p>	<p style="text-align: center;">イメージによる説明</p>
(6) 社会性 (人間関係・社会性)	<p>あらゆる集団において自ら選んで行うあそびを中心としながら、次第に対人関係の改善を図ります。まず、支援者との関わりを深めながら友だちとの関わりを広げます。</p> <p>次に、設定されたあそびに参加できるように支援する中で、社会性(待つ・我慢する・共同で行なう・役割を理解する等)を養い、簡単なあそびのルールを理解します。</p>	
(7) 個別支援	<p>全園児を対象として、個別支援を計画していきます。</p> <p>実施については、前述の「感覚と運動の高次化理論」「感覚運動あそび」等の療育法を参考にしながら、各個人に有効に機能するように配慮しながら個別療育プログラムを立案、実施していきます。</p>	